

小学五年

国語

解答と解説

1

問一	エ	21
問二	Ⓐ	
	ウ	
	Ⓑ	
	ア	(添字)
	Ⓒ	
問三	オ	22
	ア	23

問四	誰	
	も	
	が	
	、	
	き	24
問五	ウ	25

問六	A	
	き	
	つ	
	い	
	お	
	B	(添字)
	末	
	永	
	に	
	あ	26
問七	イ	27
問八	ウ	28

問九	A	
	末	
	永	
	が	
	ま	
	た	(添字)
	B	
	V	
	サイ	
	イ	
	ン	
	C	
	父	
	の	
	姿	29

問十	エ	30
問十一	イ	31

2

問一	1	
	ウ	32
	2	
	ア	33
	3	
	エ	34
	4	
	イ	35
問二		
	イ	36
問三		
	ア	37
問四		
	ウ	38
問五		
	エ	39

問六		
入	本	被害を受けても、 科学・ 技術に 対する 基
り	的	
す	な	
る	素	
こ	養	
と	が	
に	な	
な	い	
る	た	
こ	め	
と	に	
。	、	
	泣	
	き	
	寝	

40  
41  
42  
43

		<b>5</b>		<b>4</b>		<b>3</b>							
⑥	招	①	百貨	①	×	①	エ	問九	む	問八	A	問七	世
									ず		誰		の
64		59		53		47			か		も		中
⑦	逆	②	完敗	②	○	②	ア		し		が		の
									い		独		の
65		60		54		48			立		立		あ
⑧	群	③	国境	③	×	③	イ	46		(解答)			
											B		
66		61		55		49					真		
⑨	固	④	器具	④	×	④	ウ				の		
											民		
67		62		56		50					主		
⑩	散	⑤	漁港	⑤	○	⑤	イ				主		
											主		
68		63		57		51							
				58		52							

  

(配点)

① 各5点

② [問一] 各2点、[問六] 8点、他各5点 } 計150点

③④⑤ 各2点

【解説】

1 佐川光晴の「四本のラケット」(集英社)から出題しました。

一人のちよつとした悪意と、違和感を覚えながらも情性で従っていたルールに巻きこまれ、互いへの不信感が蔓延し、それによつて翻弄される少年たちの心情が描かれています。そんな中で、自分の内面をきちんと見つめ、正しいことをしようとする「ぼく」の気持ちの移り変わりを丁寧に読み取りましょう。

問一 A2 関係つけ 知識

《1》一年生たちは皆惨敗しました。ですから、サブプが決まらない、と同意になる語が入ります。「まるで〜ない」は「ぜんぜん〜ない」と同意です。《2》直後に「先頭をきっている」ので「走るのはなれていた」とあるので、ア「今日は・ウ「たぶん」は入りません。《3》直後に「…分かれてほしい」という願望が書かれています。イの「きつと」は入りません。《4》武藤は末永や部員たちに後ろめたい気持ちを抱え、後悔していることが読みとれます。またその後Vサインを送っていることからア「白々しく」、ウ「いやいや」などは不適切だと分かれます。

問二 A2 知識 関係つけ

①「□が立たなかった」は負けていた、というような意味になるので「歯」が入ります。

②「裏□に」は反対に、というような意味になるので、「腹」が入ります。

③「□口」はやり方、というような意味になるので、「手」が入ります。

問三 B1 理由 比較

父が母に「ぼく」を心配して連絡したこと、母がそれで仕事を早退したことから、両親は忙しくても「ぼく」を大切に考えてくれていることが分かります。また、「ぼく」が心配させないようにふるまい、「今夜は父と母がそろっているのだとおもうと：気合いがはいった」とあることから、自分たちの問題として解決し、それを報告したいという気持ちなのだと分かります。イまだ問題は解決してないので、「肩の荷が下りた」という表現は不適切です。ウ母に申し訳ないからはやく解決したいわけではありせん。エ「子ども扱ひ」「鼻をあかしたい」などはここから読み取れません。

問四 B1 理由

一年生が惨敗したのは、きのうのできごとが頭から離れないことが原因だと考えられます。

問五 B1 知識 理由

線③以降、「ぼく」が今後どうなるか「…疑いだせばきりがない」と考え、その後さまざま不安を募らせていますが、悪だくみに関わった部員たちも、これと同じようなことを考えているはず。お互いのことを疑い、なんでもないようなことでも不安でおそろしくなるさまを表現する四字熟語は「疑心暗鬼」です。

問六

**B1** 具体・抽象

——線④を含む段落の冒頭に「そう結論したのは」とあるので、直前の段落に答えがあると考えられます。結論は、「最終的に中田さんに頼むとしても、まずはみんなで末永にあやまり、そのうえで相談するのが筋だろう」です。中田さんへの相談は仮定の話ですから、ぼくがするべきことは、末永にあやまることだと考えられます。その上で末永にあやまる理由を同段落から読み取りましょう。

問七

**B1** 具体・抽象 比較

——線⑤の直前に「武藤が顔をうつむかせてこつちに歩いてくる」とあること、朝練でもふがいないプレーをしていたことから、武藤がきのうのことを後悔し、うしろめたく思っていることが読みとれます。ただ、武藤の気持ちは詳細には書かれておらず、ア「てつきり：報告されると思っていた」、ウ「中田さんや：考えていた時に」エ「嫌われていると思っていた」などはこの文章からは読み取ることができません。

問八

**B1** 具体・抽象 比較

「ぼく」はその場に一年生しかいなかったことに「落胆」しているわけですが、「落胆」とは何かを期待していたのに、それがかなわなかったから感じる気持ちです。つまり、「ぼく」は先生たちがきてくれて、自分たちが「怒られ」「ケリがつく」ことを期待していたのです。「ぼく」は自分が「落胆」していると感じた時、先生たちにケリをつけてもらえれば、どこかで期待していたことに気づき、自分たちが起こした問題を上の人に解決してもらおうとしていた、自身の甘さに腹を立ててい

るのです。

問九

**B1** 理由 関係づけ

「ぼく」は「ふつうにグーパーじゃんけんをする」しかないと思いつつも、「末永がまたひとりになってしまったら：收拾がつかなくなる」と心配しています。「ぼく」は「やるべきこと」を決心して以降、末永のことを第一に考えていますが、なかなか解決方法が見いだせていません。——線⑦の直前に挟まれるVサインを送る父を回想するシーンは何かしらのカギになることは考えられます。この二点から答えを導きましょう。ぎりぎりまで追い詰められた「ぼく」が父の姿を思い浮かべ、無意識のうちにVサインIIチヨキを出したこの場面は、「ぼく」が誰も大きく傷つけずに、グーパーではない第三の道を提示した場面でもあります。

問十

**B1** 具体・抽象 比較

久保も武藤と同様、細かい描写はありません。ア「うんざりしていた」、ウ「心苦しく思っていた」「武藤に：わかってもらわなければ：使命感がわいてきている」などは読み取れません。イ「今日も武藤と同じグループになろうとしていた」とありますが、久保は武藤と同じグループを出したただで、かげで画策していたとはいえません。

問十一

**B1** 具体・抽象 比較

今自分が何を優先するべきかを一人でじっくり考え、決して力づくではなく、皆が納得できる落としどころを見つけたと奮闘する「ぼく」の姿から考えましょう。

② 池内了の「なぜ科学を学ぶのか」(筑摩書房)から出題しま

した。科学・技術の持つ二面性について、また科学を学ぶ理由について書かれた文章はしばしば出題されます。科学・技術は現代の豊かな生活を支えてくれているものである一方、公害や核兵器などをうみだす、人間の存在を脅かすものでもあります。筆者はその二面性を踏まえた上で、科学・技術が現代社会と切っても切り離せない存在である以上、現代を生きる誰もが、科学的なものの方、考え方を身につけ、その上で率直に議論し、よりよい方向を見いだしていく社会(＝真の民主主義社会)を目指すことが必要だと訴えています。

問一 A2 関係つけ 知識

文を接続する言葉は、前後の文の関係をよく確認して入れましょう。《1》の二文後に「さらに」とあることから、ここには「まず」が入ります。《2》の前で「科学・技術の：知ることができない」とあり、後で「：観点を身につけることはできない」とあるので、逆接の「しかし」が入ります。《3》の二段落後に「これは一例ですが」とあるように、《3》以降の二段落は、現代人に科学的なものの見方・考え方をもとに判断する姿勢が求められていることの例が示された部分ですから、ここには「たとえば」が入ります。《4》の直前に「：大切です」とあり、《4》を含む一文も「：大切です。」でしめているので、ここは並列の「また」が入ります。

問二 B1 具体・抽象 比較

「神話」は比喩で使われる時、「根拠もないのに、みなが信じこまされていたもの」というような意味で使われます。―線①

の「それが：『神話』でしかなかった」の「それ」は「原発は安全だ」という説を指すので、「原発は推進すべき」とするア・エは不適切です。ウは「人間には判断できない」の部分が不適切です。

問三 B1 具体・抽象 比較

―線②を含む一文に「人々のこのようなあり方」とあることから、直前の二段落の「人々のあり方」について書かれた部分をふまえる必要があることがわかります。また、―線②の後の三文で「私たちは科学技術の恩恵に慣れ過ぎて：考えることがなくなっている：私たちは科学・技術の内実を知っておかねばならない」と指摘していることから、現代人の科学・技術を学ぼうとしない姿勢を批判していることがわかります。ですから、答えはア。エは「ただ騙されていたという」の部分にしか触れられていないので、「自分で考え判断せずに、政府や専門家に任せてしまっている」とするアのほうがより適切といえます。イは「政府や会社、専門家」についての話なので、不適切です。ウ「運動や、書物などの存在を認めようとはしない」の部分が不適切です。

問四 B1 置換 比較

―線③には「それ」を体得すれば応用が可能になる」とあるので、応用の反意語にあたる「一般的な法則」が指示語が指す内容だとわかります。

問五 B1 具体・抽象 比較

「科学・技術が持つ二面性」について「100%すべてプラ

スということはあり得ず、プラスには必ずマイナスの要素が付随している」とあるように、マイナスがあるからといって、その科学・技術を全て切り捨てるわけにはいかないということを理解しているかがポイントになってきます。ア・イいずれもマイナスの可能性がある科学・技術を使わないとするものなので不適切です。また、イ「善か悪かを仕分けて」ウ「精神的に豊かな生活」など本文に触れられていないことが書かれているので不適切です。

問六

**B2** 具体・抽象 推論

——線⑤直後に「それでは悔しい」とあることから、この「落ちこぼれてしまう」というのは、被害を受けても謝罪を勝ち取れない・泣き寝入りすることになる、ということなのです。また、会社から謝罪を勝ち取るには、「科学・技術に対する基本的な素養が必要」とあるので、「落ちこぼれる」原因は「科学・技術に対する基本的な素養」がないためだと考えられます。ここから答えを作りましょう。

※ 設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点3点とします。

問七

**B1** 理由 関係づけ

「科学・技術が原因となる事件はいくらでも起こる」理由は、現代は科学・技術が切っても切れない関係にあるからだと考えられます。そこでリード文の「現代社会では」「ようになっていく」に注目です。この二つの言葉に注目して文中から答えに

なる部分を探しましょう。

問八

**B1** 理由 関係づけ

——線⑦の次の段落に「生き生きとした知的で豊かな社会になるためには」「そのような社会（＝真の民主主義社会）にするためには」とあるように、これが筆者が「目指すべき」と考えているものです。あとは、「真の民主主義社会」と「科学的な考え方」の関係が書かれた部分を文中からぬき出すとよいでしょう。

問九

**A2** 知識 関係づけ

「付和雷同」は自分の考えがなく、他人の意見にすぐ調子を合わせることという意味の四字熟語です。——線⑧を含む一文に「それでは」とあるので、直前の段落から答えとなる部分を探しましょう。

**3**

**A1** 知識

三字熟語の問題です。「不」「無」「非」は後に続く言葉を打ち消す時に使います。その中でも「無」や「非」は「〜が無い」の意味でも使われます。「未」はまだその状態になっていないときに使われます。

**4**

**A1** 知識

敬語の問題です。相手側の行為には、尊敬語・自分側の行為には謙譲語を使います。

① 絵を「見た」のは先生ですから、尊敬語の「ご覧になる」を使います。

- ② そちらに「行く」のは自分の母親ですから、謙譲語の「うかがう」を使います。
- ③ ケーキを「食べる」のは相手ですから、尊敬語の「めしあがる」を使います。
- ④ 「言って」いるのは先生ですから、尊敬語の「おっしゃっている」を使います。
- ⑤ 「きた」のはお客様ですから、尊敬語の「いらっしゃる」を使います。
- ⑥ 「連絡する」のは自分の父親ですから、謙譲語を使い、「連絡いたします」とするのがふさわしいでしょう。